

## ハンブルクの学校事情

前ハンブルグ日本人学校教諭

青森県青森市立筒井南小学校教諭 齋藤 知音

キーワード：シュタイナー学校、インターナショナルスクール、アビトウア

### 1. はじめに

私は、平成29年4月から令和2年3月までの3年間ハンブルグ日本人学校で教鞭をとる機会を頂いた。1年目は小学部4年生担任、2年目3年目は小学部1年生を担当した。その中でも3年目は、研修主任として様々な現地の学校を訪問する機会を得たので、それを紹介したい。

### 2. 訪問した学校の紹介

#### (1) 各学校で行った調査

これからのドイツを担う子どもたちの学校事情や教育課程について知るため、現地の学校を訪問し、調査・研究を行った。主に4つの点に着目し調査を進めていった。1つ目は授業内容である。どのような授業が行われ、どのような指導方法なのか。2つ目は教員についてである。どんな教科の先生たちがいるのか、教員の1日の過ごし方や仕事内容なのか。3つ目に学校教育のシステムについてである。幼・小・中など教育の仕組み、保護者との関わり、学校行事なのか。4つ目には、学校のカリキュラムである。教科のカリキュラム、どのような仕組みで進級したり卒業したりするのか、卒業後の進路、ドイツ国内や州やその地域の学校事情など学校ならではのものや特色を調べてみたいと考えた。

#### (2) ドイツにおける学校の種類

ドイツハンブルクには、シュタイナー学校、一般的な公立学校、私立学校、インターナショナルスクールと様々な種類の学校がある。

#### ① Rudolf Steiner Schule (シュタイナー学校) 【2018年4月4日訪問】

ドイツ生まれの教育であるシュタイナー教育が目指しているものは、社会適応性が高い外交的な人間像である。そのため、シュタイナー教育では、学力はあまり重視されない。それぞれの生徒が学びたいものを主体的に学ぶエポック授業などを重視している。芸術性を高めるだけでなく手先が器用になるための授業も多い。また、学校教育に親も関わっていきたくと考えている保護者には非常に適した教育法である。ほとんどの場合、担任が数年間変わらない。そのため、一貫した教育方針で長期間学ぶことができる、子どもの精神面においても落ち着いた発達を望むことができる。保護者も長い時間をかけて担任教師と深い関係を築くことができる。

エポック授業を参観させて頂いた。「エポック」は、国語・算数・理科・社会といった主要教科から1教科だけを選んで数週間学習し続けるそうだ。集中して1つの教科を学習することで、各教科に対しての知識を深められると考えられている。点数で優劣をつけないためにテストは実施せず、日々の受け答えや提出物などで評価する。この日は、1時間の中で数の勉強、リコーダー演奏、詩の勉強、計算練習と一見違った学習に思える内容をテンポ良く展開し進められていた。面白い内容で40人という大人数なのに集中し落ち着いて学習していた。

手芸の時間は、伝統的な織物の様子を見学することができた。12台の織物の機械があり、機械ごとに織られている模様が違って、昔話「つるのおんがえし」で見た機織りのようだった。体育の時間は、バレーボール大会前日のため、グループごとの練習をしていた。雰囲気は日本の体育と似ていた。

オイルトミューという時間があった。体を使っているいろいろな表現をする時間で、みんなで円を作り、お互いに見

合って学習をする。見ることで協調性や責任感を育むそうで、詩を唱えながら言葉の響きに沿って体を動かすなどの取り組みを行っていた。この時間のオイリュトミーは、身振り手振りによって詩を表現していた。音楽もあり、言葉が自然に体の中に入っている感じだった。思考・感情・行動の一体感があった。

エポック、手芸、オイリュトミー、銅板、体育、英語、フランス語、物理の授業を参観し、学校見学後、職員との懇談会をさせて頂く機会を得た。ドイツのシュタイナー教育を見学できるだけでなく話を聞くことができる貴重な機会であった。シュタイナー教育や具体的な教育活動など詳しい説明を聞くことができた。ドイツの教育制度、教育施設やカリキュラム、評価についても知ることができた。建物自体にも趣向があり、自然の中には直線がないからといった考え方で学校の建物自体に曲線が多く、壁の色合いもパステルカラーが多い印象だった。テーブルやイスなども独自のデザインのものを使っていた。フォルメとって、直線や曲線、四角や渦巻などの線を、色を使って描くことによって、運動感覚やバランス感覚、集中力を養うということだった。

シュタイナー学校は、指導体制が整っていて、日本人の私から見て独特ではあるがしっかりとした理念のもと教育活動が行われていた。子どもたちの成長や個性を大切にしていることや人間性の育成に対する熱意が伝わってきた。保護者と学校、先生との信頼関係が厚いことがわかった。

### ② Stadtteilschule (ドイツの一般的な公立学校) 【2018年7月25日訪問】

ドイツの一般的な公立学校を見学させて頂いた。この日は、入学式だった。入学式の日担任とクラスが分かるようで、ホールに集まり、名前が呼ばれ担任は30人くらいを引き連れて自分の教室に行った。30人くらいが1クラスで担任は2人だった。

その後、Religion (日本でいう道徳) の授業を見学。学級開きの様子を見学することができた。初日だったため自己を見つめる時間、係決めなど学活的な要素の授業だった。クラスに対する私の意見というカードを使い、全員が友達に対して良いと思う点の意見を言い、それに対して意見を出し合う形式で、全体的に落ち着いて授業が進められていた。

次に、Music (音楽) の授業を見学。学級開きでレクリエーションを行っていた。1人が外に出て、壁に隠れた人を当てるゲーム。交代でいろんな人が隠れて当てるゲームをしていた。和やかな雰囲気だった。

英語の授業は、Foods をトピックとして好きな食べ物や飲み物を英語で話す学習だった。どの子も積極的に英語を使って話す雰囲気があった。

学期初めということもあり、廊下では教室がわからず騒がしい雰囲気もあったが、教室に入ると担当の先生の話声を静かに聞く雰囲気はあった。1時間ごとに教室や先生が変わるドイツの教育環境に触れられ大変貴重な体験となった。

### ③ Leibniz Privatschule GmbH (ドイツの私立学校) 【2019年8月19日訪問】

ライプツィヒ私立学校では、下記の時間割で授業参観をさせて頂いた。

#### 小学部

2. Stunde 2時間目 8:45-9:30	Klasse 1-a Math (算数)	Klasse 2-b Math (算数)	Klasse 2-c HWS (社会)
3. Stunde 3時間目 10:00-10:45	Klasse 1-c Deutsch (ドイツ語)	Klasse 4-a HWS (社会)	Klasse 4-b Sport (体育)

## 中学部

2. Stunde 2 時間目 9:00-9:45	Klasse 6-b Nawi (理科)	Klasse 7-d Math (数学)	Klasse 8-a Deutsch (ドイツ語)
3. Stunde 3 時間目 10:00-10:45	Klasse 6-a Sport (体育)	Klasse 6-d Geschichte (歴史)	Klasse 9-a Physik (物理)

1-a クラス Math (算数) を参観して 4 人グループが 5 つと 2 人で 22 人のクラスだった。黒板には、TOPIC Circus Math PROGRAM 1 Number 3 2 Let's count 3 Amount of balls と書かれ、その日の話題と流れが書いてあった。授業内容は、3 という数字に模様を付けたり、色を付けたりして 3 を飾る。(個人)

次に、プリントの上におはじきを置く学習。(個人) 机の上に言われた数のおはじきを置く。(全体での確認) などの流れで進められていた。そして、マジックナンバー5 の確認。最後にホームワークの確認をしていた。

4-a クラス HWS 社会を参観した。TOPIC The Circus project PROGRAM 1 Vocabulary to the topic 2 At the circus story 3 Booklet 4 The Circus Craft AIM to learn more about the circus to practice vocabulary このクラスには、係り活動があった。テーブルを掃除する係、黒板を綺麗にする係、植物の世話係、昼食を運ぶ係など 10 個の係りに分かれて活動しているようだった。

学校見学後、職員との懇談会をさせて頂いた。クラスによって机の配置が違うが基本的には授業のやり方によって担任が決める固定席である。議論によって授業が進められるべきと考えられているため 4 人グループの席を作っている学級が多い。この学校は係り活動が進められている。社会人になる時、そういう仕事は役に立つという考え方からである。教科書を使わず独自のカリキュラムで行われている。

生徒指導面の様子も話を聞くことができた。この学校の場合、日本と似ていて万引きなどがあると学校の先生がお店に行くこともあり、学校と保護者が一緒になって生徒指導を行っていくという考え方だった。1 年生から 4 年生までは同じ担任でクラス替えなし、4 年で卒業し 5 年生からは、教科担任制で担任なしとなる。5 年生からは自分自身の責任という考え方である。アビトウアをもらうことができる。4 年生から 5 年生に上がる時は、ドイツの法律によって上がるか上がれないかが決まる。しかし、それ以外は学校の裁量となっている。

### ④ Pinneberg International School (インターナショナルスクール) 訪問【2019 年 8 月 26 日訪問】

1GRADE~12GRADE まであり、1 年から 4 年までは学級担任が大体の授業を教え、5 年生からは担任がいるものの教科担任制になっている。12GRADE が終わると、ドイツでいうアビトウアと同じような資格がもらえ、大学受験をすることができる。また、この資格試験は、様々な国のインターナショナルスクールでも行っていて、世界中にまたがって移動する際有効になるようだ。

午前の授業は、ドイツのカリキュラムにしたがったドイツ語、算数、生活、英語、スポーツなどの授業が英語で行われていて、午後は子どもたちが興味を持ったものを、目的などを自分で考えて行うクリエイティブな授業になっている。週 3 回の授業でファッション、料理、音楽、写真様々なクラスがあり、みんな生き生きと学んでいた。

日本人学校から転校していった児童生徒もいた。英語が上手でない子どもたちが抽出され英語のレッスンが行われていた。語学面でのサポートがしっかりされていた。運動会などの行事も行われるようだ。

### (3) ドイツの学校事情

ドイツの総合大学に入学するためには、アビトウアという、大学入学資格を取得しなければいけない。そして、このアビトウアを取得するためには、ギムナジウムという、大学入学コースの中学、高校に入学しなければいけない。この大学入学コースに行くか、行かないかの決定は 10 歳にしなければいけない。それは、小学校 5 年生から、

ギムナジウムが始まるからである。

10歳の小学生に、自分が将来、大学に行くか、専門学校に行くかを選択させるのは、早すぎるのではないか結局、親が決めているのではないかという議論がドイツ国内でもよく行われているようである。実際、親が大学を卒業している家庭の子どもは大学コースを選択し、親が大学を卒業していない家庭では、専門学校コースを選択するのが、大半のようである。ドイツでは、職業を重視する傾向にあるので大学を出た方が、就職率がいいという、日本のような風潮ではない。専門大学、専門学校の方が、理論ではなく、実践で使えるので、お給料が高く、就職も引く手あまたである場合も多い。

ドイツでは、ギムナジウムから総合大学を希望する生徒は、医学、薬学、法学、教職など、高度な専門職の場合となる。また、企業の管理職をめざしての場合である。だから、修士課程まで取得することが多い。また、日本と違う点は、大学にランキング格差がほとんどない。アビトウアを取得すれば、自分の行きたい大学に申込みができるので、ランキング格差がない。しかし、医学、薬学では定員があり、アビトウアの点数の足切りなどもある。やはり、高得点でないと医学部に行けないのは、どの国でも同じである。

ドイツの教育の良い点は、さまざまなコース、選択肢があることである。総合大学に入学するためには、アビトウアが必要だが、もし、10歳の時点で専門学校のコースを選択したとしても、高校で1年多く就学すれば、アビトウアを取得することもできるし、一旦、社会に出て働きながら、夜間学校でアビトウアを取得して総合大学に入学することもできる。ドイツの教育システムは職業を持つために、いろいろなコースを設けているので、移民の方もドイツで勉強して、職業を持つことができる。自分のしたいことは何か、どのような職業で自分は生きていくのかをいつも問われているのが、ドイツの教育の根底にある。日本と異なり、勉強した専門知識が職業につながっている。学位の専門が職業に直結するので、専門外で職業を持つことは難しくなっている。

#### (4) 考察

ドイツと日本の教育のメリット・デメリットで考えてみる。ドイツの教育課程のメリットは、様々な校種があり入学した学校によって教科も授業時数も違い、学校独自のカリキュラムによって学習が進められているので、自分または親が目指すものや自分にあった学校を選択することができる。アビトウアというドイツ国内の大学入学資格を取れば誰もがいつでも大学進学をすることができる。ドイツでは、1度様々な世界を見てから自分が何を勉強したいのかをきちんと決めてから大学へ進むケースも多い。

デメリットは、一般には10歳という早い段階で、自分の進みたい道を決め、その後は個々の目的に向かって別々の学習をしなければならない。自分のしたいことはなにか、どのような職業で自分は生きていくのかをいつも問われているのがドイツの教育の根底にあり、日本と異なり、勉強した専門知識が職業に繋がっている。学位の専門が職業に直結するので、専門外で職業を持つことは難しくなっている。

一方、日本の教育課程のメリットは、義務教育9年間は、誰もが平等に普通教育を浮けることができることである。誰にも様々な可能性が期待出来る。デメリットは、義務教育終了後高校を卒業し、18歳で将来を見越し専攻を決めなければならない。

どちらもメリット・デメリットはあり、一概にどちらが良いとは言えないが、ドイツに居住してみて感じたことは、ドイツ人はゆとりをもって生きているということだ。じっくり自分の人生を考え、楽しみ、自分が勉強したいときにしたい勉強ができる環境があるというのは素晴らしいことのように思える。人生、そんなに急がなくても良いのではないかとも思える。